

[研究ノート]

大学の授業で行えるオリエンテーリングの事例

Some Practical Examples of Campus Orienteering
for Class Activities

松 澤 俊 行

浜松学院大学短期大学部研究論集第14号（平成30年3月）抜刷

大学の授業で行えるオリエンテーリングの事例

Some Practical Examples of Campus Orienteering for Class Activities

松 澤 俊 行

はじめに

教育活動の中でのオリエンテーリングと言えば、広大なフィールドの中をグループで協力しながら進んで行くプログラムのイメージが持たれている。現代の社会情勢や学生気質の影響もあり、事前準備や当日の実施に長時間を要し、指導者、学習者側双方に忍耐が必要とされるプログラムを中心に構成した実習は、受け入れられにくくなってきている。大学の授業一時限分で行えるプログラムを何種類も行い、学習者を飽きさせることなく、こまめに達成度をチェックしながら成果へと結び付ける構成が求められている。

筆者は、浜松学院大学短期大学部の集中講義「野外教育活動」をそのような構成で進め、過去の論文（参考文献欄参照）で成果について報告をしてきた。そして、2017年9月には、日本体育学会のランチョンセミナー（昼食休憩時間帯に、昼食を取りながら参加できるセミナー）の演者として、現役の大学生や大学教員に向けて、実践してきたプログラムを紹介する機会を得た。

本稿では、そのセミナーの配布資料を掲載する。そして、当日の参加者の反応や、今後の展望を記す。

セミナーの概要

第68回日本体育学会（2017年9月8日～10日、静岡大学静岡キャンパスにて開催）では、ランチョンセミナー企画の募集が行われた。オリエンテーリング競技の元日本選手権者であり、公益社団法人日本オリエンテーリング協会副会長でもある静岡大学教育学部教授・村越真が、大学で実施できるオリエンテーリングを紹介する目的で、筆者を演者として企画の申し込みをした。村越と筆者は、2017年5月以降、数回のEメールによる情報交換を行った他、8月6日（日）に静岡大学静岡キャンパス内で打ち合わせを行い、セミナーの内容を決めた。

当日は、受付から僅かな時間で定員の40名（昼食の弁当付き）が埋まり、「昼食なしでも良いから話を聞きたい」と希望した5名を加えて、45名の参加者を集めた。セミナーは、当初の計画通り司会を村越が、演者を筆者が務め、常葉大学短期大学部保育科准教授・遠藤千里の補助を受けて進行した。

セミナー配布資料 (1)

以下、枠内にセミナーでの配布資料の本論部分を掲載する。(本論の他には、筆者の氏名と連絡先を記していた。) 改行部分や図の配置は、本稿の書式に合わせて適宜調整した。

明日から使えるオリエンテーリング

地図を読んでルートを決め、そのルートを正しく、速く回ることを競うオリエンテーリング等のナビゲーション・スポーツ。広大な範囲を動き回ることになり大がかりな設営が必要とされる印象がありますが、大学キャンパス内をフィールドに短時間の準備で行えるプログラムも多数あります。その例を紹介します。

◇ 体育館内ミニナビゲーションエクササイズ

体育館の床にマーカーを置き、指定された順番に辿る練習。

図1は規則的にマーカーを並べたコース。次に向かう方向を意識し、正しく方向を変えることが大事。図2はバスケットボールコートのライン(※旧式)を道に見立てて、道の分岐点や交点を意識しながら正しく道が辿れるか試す練習。

最初は難しいので、ペアになって1人がプレイ、もう1人が枠外から眺めて正誤判定をすると良い。

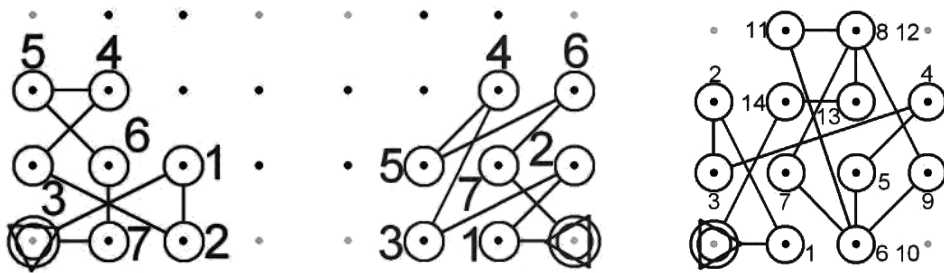


図1 マーカーを並べて行う練習用図面

図1中、左の図と中央の図はルールの理解と基本練習用のコース。右の図がレベルアップ版のコース。正方形にマーカーを並べれば、四隅それぞれをスタートにして同時プレイすることも可能。図2では△から「道」を上に向かうとAの方に行けないので左に向かってその先で右に曲がる。バスケットボールコートの他、柔道場の畳の配置をアミダくじのような図面にして辿るゲームなどもできる。これは住宅地の格子状の道を辿るような難しさがある。

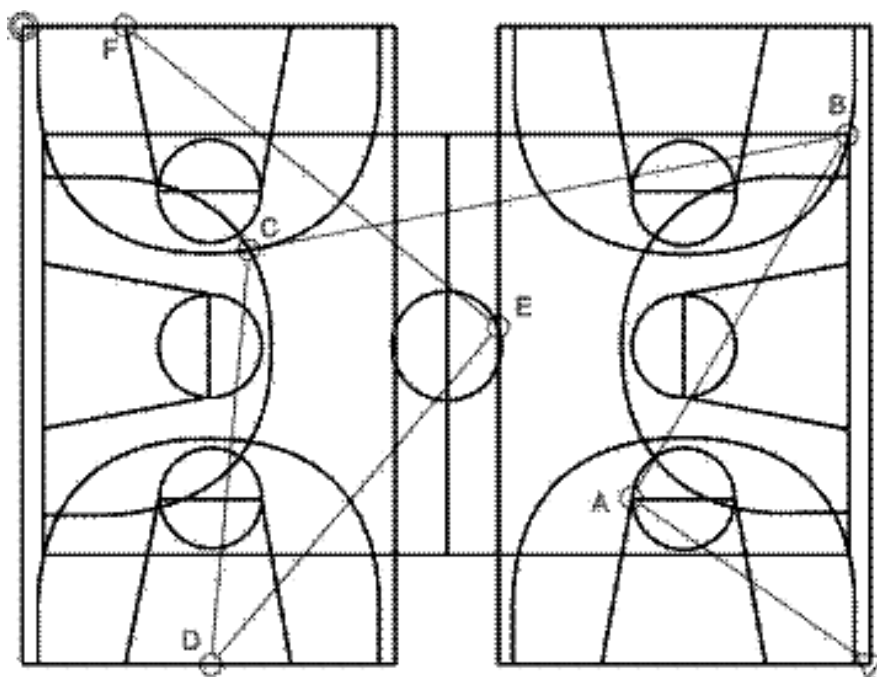


図2 バスケットボールコートを用いた練習用図面

◇ キャンパス内フォトオリエンテーリング（別紙参照 体験できます）

別紙のような地図と写真シートを用意して制限時間内にできるだけ多くのポイントを回るゲーム。「スコアオリエンテーリング」のように、制限時間で回り切れないぐらいのポイントを設定し、遠い場所、見つけにくい場所ほど得点を高くすれば作戦タイムの時間も楽しくなる。

通過の証明は、ポイント地点に目印（オリエンテーリング用のフラッグなど）を置いて刻印用のパンチ器具（クレヨンやシールで代用可）を設置しても良いし、「スマホ・携帯を持って行き、ポイントに着いたら写真シートと同じ構図で撮影をしてくること（ゴール後に写真を見せること）」としても良い。

キャンパス内で気軽に行え、「意外な名所」の発見もあって面白い。

◇ 道路地図ナビゲーションウォーキング

あらゆる地図の精度が向上している現代、道路地図を使つてのナビゲーションも読図力がフルに試され、楽しい。下はルートを指定し、先頭（道案内役）を交替しながら歩いた集団ウォーキング用の図の一部（昭文社「県別マップル 静岡県版」を使

用)。目の前に出て来る目標物を予測し、進むか曲がるかの判断をしながら進んで行く内に「テレビゲームでカーレースをしているような気分になって面白い」と言い出す学生もいた。

「地図内にある幼稚園・保育園を制限時間内に五ヶ所以上巡る。各自でルートを決め、各目的地の通過時間を確認して記録する」など、学生の興味に合わせた課題を指定するのも良い。

(地図の複製・配布は、使用目的・配布対象によっては作成者の許可が必要となる場合があります。ご注意ください。また、市街地・住宅地を歩く際は事故や近所迷惑がないよう、安全確認・危機管理にご配慮ください。)



図3 道路地図ナビゲーションウォーキングのコース

◇ 競技形式のオリエンテーリングミニ体験

競技で行うオリエンテーリングのコースは短くても数km（長いと10km以上）あるが、ぐっと短くして数百mのコースなら誰もが試しやすい。大人数の授業であれば、グループ分けしてリレーを行うと盛り上がる。

下は3種類のコースを用意し、3人組のリレー（走るのは一人ずつ）を実施した時のコース。グループごとに各コースを走る順番が異なるので、安易に他のグループに

付いて行くと違うポイントに連れて行かれることになりかねない。（※ 公式な競技のリレーもこうしたコースの細工で地図を読まない追走を防止している。）グループで同時に同じコースを回ると地図に触れないメンバーが出てくるが、この場合は全員が読図を行える。

競技会では地図は自分の出番まで見られない。授業の場合はスタート前にグループ内で地図を見せ合って作戦会議をしても良いだろう。不安な学生はチームメイトの付き添い可能、というルールを追加しても良い。

図4～6はオリエンテーリングの専門家が作成した競技規定に沿った地図（Oマップ）であるが、もちろんOマップでなくても実施可能である。スタート前にインターネットでアクセスできる競技会の動画を見せると学生たちの気分も高まる。

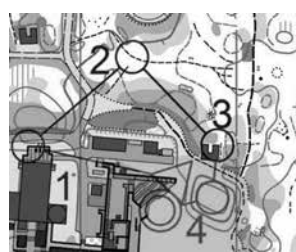


図4 リレー用コースA 図5 リレー用コースB 図6 リレー用コースC

（図4～6は、いずれも「静岡県立朝霧野外活動センター」の地図）

◇ スtringオリエンテーリング

コースに紐などの目印があり、順番に辿るだけでコースが回れるオリエンテーリング。初心者、特に子どもを森に慣れさせるためのプログラムである。キャンパス内のちょっとした林に入るきっかけになる。目印の準備から活動を始められ、教員志望の学生から良い反応がある。（図7、8は静岡県立朝霧野外活動センターで撮影。）



図7 コース上の写真



図8 受講者の写真



図9 セミナー当日の写真

左は講義室内での説明の様子（撮影は村越）。右は体験コースを回る参加者の様子（撮影は筆者）。

セミナー配布資料（2）

（1）の資料中で「体験できます」と記したキャンパス内フォトオリエンテーリングのコース地図と写真シートを掲載する。当日は、A4の用紙片面に地図と写真を印刷して配布した。ここでは（1）同様、文字や図、写真の配置は本論集掲載用に適宜調整した。（図や写真の番号は、当日配布の資料に準じて省略している。）

この資料作成のための下見は、8月6日の打ち合わせ前の時間帯に実施した。コース地図は静岡大学ホームページからキャンパス案内図をダウンロードし、加工して作成した。写真は全て、下見当日に筆者が撮影したものを用いている。このコース地図と写真シートは、村越にEメール添付で送信し、不都合がないことを確認した上で印刷、配布した。

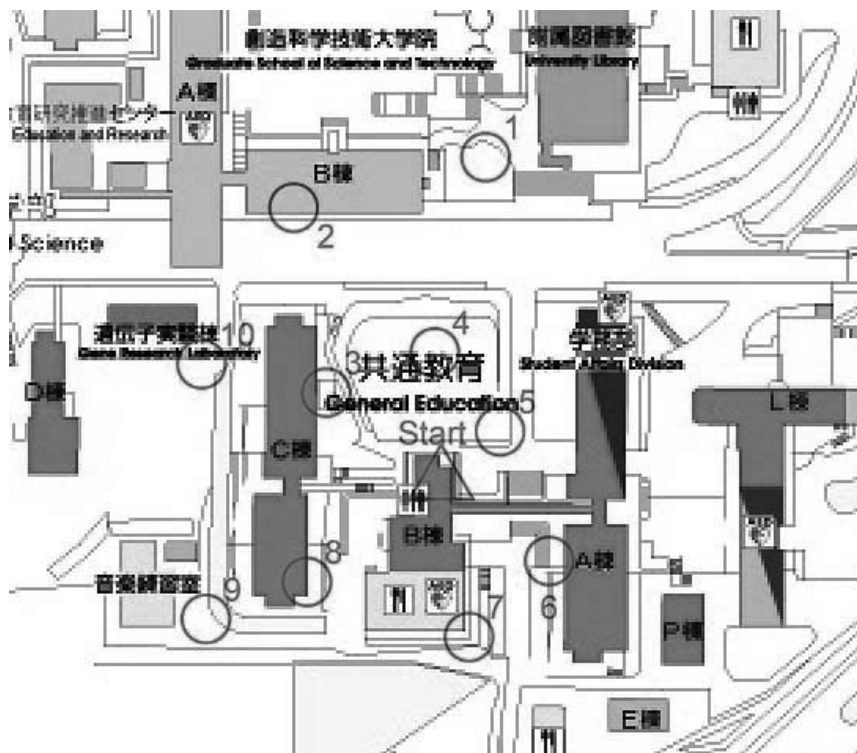
要した時間は下見に30分ほど、シート作成のための作業（パソコン操作）に40分ほどであり、1回の授業の準備としては手頃な範囲と思われる。

9月10日 日本体育学会 オリエンテーリング体験コース

（静岡大学静岡キャンパス共通教育棟周辺）

10ヶ所は上の図の○で囲まれた地点。もう1ヶ所は地図のどこか、○を付けてください。（制限時間15分）現地に行った証明の仕方…お手持ちの携帯、スマホ、デジカメで同じ構図の写真を撮って来てください。

大学の授業で行えるオリエンテーリングの事例



スタート地点 (△)



ソテツの木 ()



段差とガードレール ()



生協の階段 ()



大学文書資料室 ()



ゴミ箱3つ ()



マムシに注意 ()



研究用の温室 ()



電話ボックス ()



時計台 ()



石垣の角 ()



ドラム缶 (丸なし)

セミナー参加者の反応

セミナー当日は、筆者による事例紹介を中心とした説明に、会場中の参加者が耳を傾けてくれた。質疑応答の時間には、次のような質問が挙がった。

質問1.「屋内のプログラムでは、フィールドの大きさをどのぐらいにしているか」

質問2.「男子学生と女子学生で、達成度の違いは見られるか」

質問1に対しては、「例示したケースでは、各ポイントの間を4～5mにした。行う場所に応じて調整すれば良い」と、質問2に対しては「女子が圧倒的に多い幼児教育科で行っていることもあり、女子の積極性が目立つ。男女間に、体力差以上の差は感じない」と回答した。質問2に対しては、認知心理学を専門とする村越から補足もなされた。

質疑応答終了後には、「自分の担当する授業でも、似たようなプログラムを実施している」と報告してくれる参加者もいた。「体験コースの地図は建物名など文字情報が残っているが、消した方が読図による判断を促せるので良い。行ってみて初めて名所だったと気付くと、学生も喜ぶ」と、経験に裏付けられた意見も聞かれた。

解散後、屋外で2名が体験コースを回っていることを確認した。他会場への移動を兼ねて、一部ポイントを通過した参加者は他にもいたと推測される。猛暑の時期でなければ、さらに多くの利用があったのかもしれない。

おわりに

このセミナーの報告は、即日日本オリエンテーリング協会のフェイスブックにも掲載された。(投稿者は村越。)

事例を紹介する上では、どこでも実施できるよう、「短時間の準備で行える」という部分を強調した。先に述べたように、今回の体験コースと地図も、さほど時間を掛けずに準備できた。近年は、インターネットで手に入る情報も多い。機材やソフトの充実により、作図や印刷も手軽に、かつ鮮明に行え、短時間の準備でも教材の質は充分に確保される。次は、実際の作図の様子をスクリーンに映し出しながら解説するなど、真剣に実施を考えている対象層向けに、より実践的なセミナーを開催してはどうか、との案も挙がった。

一方で、「便利な機器に頼り切るよりは、学生の手も借りながら手作業で行い、理解を深めていく部分も必要」との意見も聞かれた。そうした手作業を含む授業に対する学生の反応は上々である(特に、教員養成課程の学生の反応は良い)との見解も、その場に居合わせた者の間では一致した。

日本オリエンテーリング協会では、現在、協会加盟大学のオリエンテーリングクラブに対し、オリエンテーリング用キャンパスマップの有無や、その活用状況について調査を行

おうとする動きがある。現在ある地図は活用の幅を広げて、現在地図がない大学では地図作成を進めて、普及と競技力向上に役立てる目的である。その過程で、授業でオリエンテーリングを行う動きも広がっていくことが望まれる。筆者も、その調査や各関係者への助言、指導などに、積極的な協力をしていきたい。

<参考文献>

松澤俊行「幼児教育科学生のための『野外教育活動』授業に関する研究」浜松学院大学短期大学部研究論集第11号,2015年

松澤俊行「野外教育活動におけるストリングオリエンテーリングの実践」浜松学院大学短期大学部研究論集第12号,2016年

松澤俊行「等高線の読み方を学ぶ」浜松学院大学短期大学部研究論集第13号,2017年

<参考ウェブサイト>

一般社団法人日本体育学会ウェブサイト <https://taiiku-gakkai.or.jp/>

公益社団法人日本オリエンテーリング協会ウェブサイト

<http://www.orienteering.or.jp/>

国立大学法人静岡大学ウェブサイト <http://www.shizuoka.ac.jp/>

